
日本における災害時派遣医療チーム（DMAT）の標準化に関する研究

（辺見 弘ほか。平成 13 年度厚生科学特別研究最終報告書 第 1 部）

2012 年 5 月 11 日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

■本研究の背景

平成 13 年 6 月に「災害医療体制のあり方に関する検討会」報告書（座長：前川和彦 東大名誉教授）の中において、日本版 DMAT 構想（辺見案）が提出された。

■本研究班の目的

広域的な災害や多様化する災害に対し、機動性を持ち、多様な災害に必要となる様々な能力の提供をしなければならない。さらに、日本全国あるいは地域の「標準化」した災害派遣医療チーム（DMAT）の普及により、より効果的、より機能的な対応を可能にする。

■災害派遣医療チーム（DMAT）の定義

本研究では、災害派遣医療チーム（DMAT）を「災害の急性期（48 時間以内）に活動できる機動性を持った、トレーニングを受けた、医療チームである」と定義した。

■チーム構成

- ・規模は大規模（30～50 名）の部隊としての行動も可能
- ・活動時期は通常急性期のみ
- ・トレーニングは必須、参加資格、認定制度あり
- ・職種は医療従事者、必要に応じては救助・救命士・救助犬等の多職域と連携
- ・DMAT 特殊チームとして US&R, NBC 対応, 広域搬送, 精神専門チームを想定

■DMAT の任務

1. 被災地域内での医療情報の収集と伝達
2. 被災地域内でのトリアージ, 応急治療, 搬送
3. 被災地域内の医療機関、特に災害拠点病院の支援・強化
4. 広域搬送基地医療施設（ステージング・ケア・ユニット）における医療支援
5. 広域航空搬送におけるヘリコプターや固定翼機への搭乗医療チーム
6. 災害現場でのメディカルコントロールの発揮による他の医療従事者（救急救命士、看護婦等）の支援、活性化 など

■DMAT 特殊チーム

基本的な DMAT 任務に加え、特殊な任務を有するチーム。

1. US&R (都市探索チーム) に付随する災害派遣医療チーム

- ① 長時間搬出困難な患者に対する医療行為（静脈確保、薬物投与、気道確保等）
- ② 現場におけるメディカルコントロールによる救急救命士等の支援
- ③ 究極な状況下の外科処置（たとえば現場での四肢切断等）
- ④ 危険な状況下で活動する都市探索チーム隊員に対する医療提供
- ⑤ 過ストレスの状況下で活動する都市探索チーム隊員に対する精神科的アプローチ
- ⑥ 平時の研修やトレーニングにおける支援など

2. NBC 対応チーム

- ① 警察・消防・自衛隊等の現場除染（一時除染）における医療支援（気道確保、点滴路確保、薬物投与等の救命処置）や医学的助言
- ② NBC 災害現場におけるメディカルコントロール発揮による救助隊や救命士の活動支援
- ③ NBC 災害現場における医学的な助言
- ④ 病院における除染等の支援
- ⑤ 病院に対する NBC 対応の巡回指導 など

3. 広域搬送対応チーム

- ① 患者搬送拠点や航空基地における航空医療救護所（ステージング・ケア・ユニット）の設営と運営
- ② 空港医療救護所（ステージング・ケア・ユニット）における傷病者の安定化と航空搬送の適否の判断（航空搬送トリアージ）
- ③ 航空機搭乗業務
- ④ 航空機搬送中の機内での医療提供 など

4. 災害時精神医療チーム (CISM - DMAT)

- ① 被災地における精神科的アプローチについての専門的助言
- ② 負傷者や家族に対する精神科的介入
- ③ 災害対応者（医療従事者、救助隊等）過度な精神的ストレスを受けるスタッフへの精神科的介入
- ④ 平時における災害対応チーム等への精神科的な教育、指導 など